

パタゴニアが匠瑛市ソーラーシェアリングでワークショップ開催

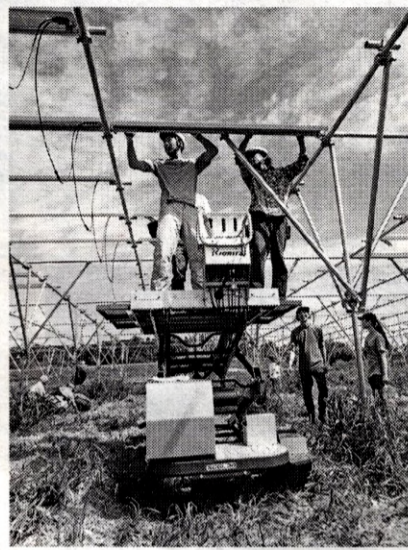
レポート

工事現場や農業現場で使われる高所作業車に載ったパタゴニア渋谷店のスタッフが電動ドライバを使って太陽光発電パネルを一枚ずつ架台に取り付けている。若者を中心に人気のあるアウトドア用品を製造販売する同社のスタッフたち26人は、9月30日千葉県匠瑛市で建設が進むソーラーシェアリングでのワークショップに参加した。

社員自ら作業

パタゴニアはアメリカ発祥で登山用品、サーフィン用品、アウトドア用品、衣料品の製造販売を行っているが、環境に配慮する商品で知られている。店舗は世界中に展開されているが、日本国内の直営店は渋谷店を含む22店となっている。環境意識の高い同社では再生可能エネルギー導入にも熱心だ。すでに一部の店舗で使用される電気は再生エネルギーを使用している。

パネルを架台に取り付ける渋谷店のスタッフ



匠瑛市には20以上のソーラーシェアリングが集約して立地し、国内におけるものに切り替えるためのものに切り替える。店舗で使用される電力がこのソーラーシェアリング由来であることを証明するトラッキングの手続きのために、みんな電力（東京

2020年までに太陽光パネルを設置

再エネ100%目指す

の聖地となっている。匠瑛市を中心にソーラーシェアリングの建設、運営を行っている市民エネルギーちば（みんなエネ）と同社が提携し「パタゴニア×みんな匠瑛ソーラーシェアリング発電所1号機」パネル容量70誌・PCS容量50誌を建設し、4月9日から渋谷店で使用される電気はここからのもに切り替える。店舗で使用される電力がこのソーラーシェアリング由来であることを証明するトラッキングの手続きのために、みんな電力（東京

都田谷区）が持つプロックチェーン技術を用いている。しかも、その太陽光パネル下では地元で農作業を請け負う会社、スリーリトルバード合同会社（TLB）が有機農業を展開している。渋谷店スタッフは1号機パネルの下で栽培されている大豆の

1号機で発電される電気が渋谷店に送られる

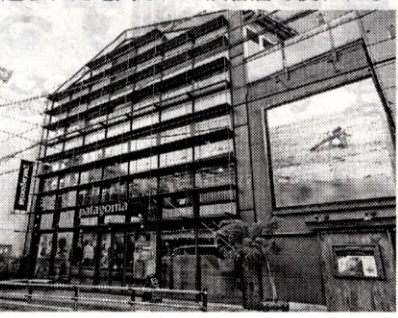
みんな電力（東京



除草作業も電動刈払機を使って行った。参加したスタッフのひとり「メチャ楽しい。いつも働いている店の電気が作られている現場に来ることな

ア日本支社がオフィスや店舗で使用する電力の45%を匠瑛市で発電することに。パタゴニア日本支社では今後再生可能エネルギー導入店舗を拡大することで、2020年までにオフィスや店舗で使用する量の電力を再生可能エネルギー100%にする（再エネ100%）の動きがその象徴だ。

「再生可能エネルギーであれば望ましい」「RE100（再エネ100%）の動きがその象徴だ。」の動きがその象徴だ。



このように作られているのかという情報を探している。環境への意識の高まりとともに、エネ舵を切っている。それを具体化したひとつがソーラーシェアリングだ。さらに、農業分野での匠瑛市のソーラーシェアリングの動画などを店内で建設が決まってから農地として再生されるまでの記録映像を見ながらソーラーシェアリングの意義に関する意見交換をした。国内屈指のオシャレな街である渋谷店には多くの人々が来店するが、ここで使われる電気が再生可能エネルギーに由来するということを知ると、再生可能エネルギーの出会うことが可能になった。

「再生可能エネルギーであれば望ましい」「RE100（再エネ100%）の動きがその象徴だ。」の動きがその象徴だ。

匠瑛市には20以上のソーラーシェアリングが集約して立地し、国内におけるものに切り替えるためのものに切り替える。店舗で使用される電力がこのソーラーシェアリング由来であることを証明するトラッキングの手続きのために、みんな電力（東京

匠瑛市には20以上のソーラーシェアリングが集約して立地し、国内におけるものに切り替えるためのものに切り替える。店舗で使用される電力がこのソーラーシェアリング由来であることを証明するトラッキングの手続きのために、みんな電力（東京



電動刈払機を使って草刈り作業も行った